

.....

|                  |                                                                                               |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 負傷事故・ヒヤリハットの別 | ヒヤリハット事例                                                                                      |
| 2. 体験した事例の名称     | 火点捜索中における急激な燃焼                                                                                |
| 3. 体験した事例の中心的要素  | 現場到着時、専用住宅の2階より白煙が噴出中であつたため、火点を捜索したが家の内部がリフォームにより特殊な構造であつたため、火炎等の確認ができずその後、急激な燃焼により濃煙熱気にまかれた。 |
| 4. 体験した事例の原因・理由  | 家の外観から、一般的な造りの住宅との先入観があつたため内部の状況の把握に時間がかかった。                                                  |

.....

|                  |                          |
|------------------|--------------------------|
| 1. 体験した事例の直接的な原因 | 情報入力に問題があった。状況判断に問題があった。 |
|------------------|--------------------------|

.....

|                                   |                              |
|-----------------------------------|------------------------------|
| 1. 発生日時                           | 平成 16 年 1 月 4 日 午前 0 時頃      |
| 2. 発生した当時の天候                      | わからない                        |
| 3. 発生した活動現場                       | 屋内：2 階階段途中の踊り場               |
| 4. 体験した事例の種類                      | 回答者が、自分自身で負傷しそうになった。         |
| 5. 負傷事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度） | 重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。        |
| 6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）      | 火傷・熱傷、                       |
| 7. 事例体験時の活動                       | 火災、木造建物 [ 現場活動中期、 ]          |
| 8. （7 の活動中）<br>どのような作業中に発生したか     | 人命検索、部署・筒先配備、放水活動、進入、火点間の移動、 |
| 9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。  | これまでに 1，2 回程度体験している。         |

#### 10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

|                        |                                                                                 |
|------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| ○当事者 A                 | 年齢[ 33 ]歳、 勤続年数[ 13 ]年、 現場経験年数[ 10 ] 年、 階級[ 消防士長 ]、<br>同様の活動 [ 1 年に数度]、 任務 [車長] |
| ○当事者 B                 | 年齢[ 30 ]歳、 勤続年数[ 9 ]年、 現場経験年数[ 6 ]年、 階級[ 消防士 ]、<br>同様の活動 [ 1 年に数度]、 任務 [機関員]    |
| ○当事者 C                 | 年齢[ 28 ]歳、 勤続年数[ 6 ]年、 現場経験年数[ 4 ]年、 階級[ 消防士 ]、<br>同様の活動 [ 1 年に数度]、 任務 [隊員 ]    |
| その他<br>(当事者が 4 人以上の場合) |                                                                                 |

### 1 1. 事例発生の経過。

|       | 誰(何)が   | なにをした                   | その他・備考など |
|-------|---------|-------------------------|----------|
| 経過 1  | A, B    | 階段途中の中二階の部屋を検索          |          |
| 経過 2  | A, B、C  | 階段踊り場にて、火点搜索            | 濃煙状態     |
| 経過 3  | A、B、C   | 2 階搜索実施しようとするが、通路が見当たらず | 熱気充満が進んだ |
| 経過 4  | A, B, C | 50 c m 四方の扉を発見、内部確認     | 一部屋炎上中   |
| 経過 5  | A, B, C | 急激な燃焼により濃煙熱気充満          |          |
| 経過 6  |         |                         |          |
| 経過 7  |         |                         |          |
| 経過 8  |         |                         |          |
| 経過 9  |         |                         |          |
| 経過 10 |         |                         |          |

【その事例発生時の状況について】

.....

○負傷事故の場合：負傷事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険事象の対応方法を知っていた。集中力、注意力があった。避難・退避がうまくいった。個人装備が適切だった。他隊(員)との連携活動がうまくいった。

## ○心理・体調について

a. あせりを感じていた

|                                       |     |
|---------------------------------------|-----|
| ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 | はい  |
| ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。         | いいえ |
| ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。              | いいえ |

b. 注意力が欠如していた

|                                  |     |
|----------------------------------|-----|
| ・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。       | はい  |
| ・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。 | いいえ |
| ・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。             | いいえ |

c. 経験・知識が不足していた。

|                             |     |
|-----------------------------|-----|
| ・ 活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。     | いいえ |
| ・ 活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 | はい  |
| ・ 活動に対する経験が不足していた。          | いいえ |

d. 心身の不調があった

|            |     |
|------------|-----|
| ・ 体調が悪かった。 | いいえ |
| ・ 悩み事があった。 | いいえ |

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

|                       |     |
|-----------------------|-----|
| ・ 装備・資機材自体に問題があった。    | いいえ |
| ・ 装備・資機材の使用 방법이誤っていた。 | いいえ |
| ・ 装備・資機材の対処能力を超えていた。  | いいえ |
| ・ 必要とする装備・資機材がなかった。   | いいえ |

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| ・ 障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。       | はい |
| ・ 特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。 | はい |

g. 行動しにくい環境だった。

|                   |     |
|-------------------|-----|
| ・ 狭隘な場所であった。      | はい  |
| ・ 暑かった（寒かった）。     | いいえ |
| ・ 野次馬が多かった。       | いいえ |
| ・ 現場周辺の地理に不案内だった。 | いいえ |

h. 足場が悪かった。

|                   |     |
|-------------------|-----|
| ・ 足元が躓いたり滑りやすかった。 | いいえ |
| ・ 足元の強度が不足していた。   | いいえ |

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

|                                      |     |
|--------------------------------------|-----|
| ・ 活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）           | いいえ |
| ・ 指示内容に誤り・偏りがあった。                    | はい  |
| ・ 指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。） | いいえ |

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

|                 |     |
|-----------------|-----|
| ・ 隊員の連携が不十分だった。 | いいえ |
| ・ 隊員が不足していた。    | いいえ |

○その他

l. その他の理由があった。

|     |  |
|-----|--|
| いいえ |  |
|-----|--|